

眼病を治してくださる仏様

昭和五十五年十月五日号

医王寺のお薬師さん

東比奈、医王寺の本堂の東側には薬師如来を祭つてあるお堂があります。この薬師如来の仏像は左の手のひらに薬つぼをのせ、右手は印を結び、やさしい顔をしてすわっています。いい伝えでは千二百年前の行基菩薩の作だといわれています。薬師如来は病人に良薬を与える仏様として信仰されてきました。

医王寺のお薬師さんは、特に眼病を治してくださいださる仏様だということでむかしからお参りする人が多く、不思議な靈験で眼病が治つて、お礼に行く人もあります。



開帳は50年に一度の医王寺薬師如来像

明治の初めごろでした。田子浦村の外山重蔵は眼病にかかり、眼が見えなくなっていました。いろいろな手当をしたのですが、よくありません。光を失つた重蔵は運命をはかなんでいましたが、せめてもう一度、我が

子の姿をおぼろげでも見たいと思つていました。ふと思いついたのが薬師如来のごことでした。「薬師如来におすがりしてみよう」それから数年、薬師堂に日参し一心に祈りつづけました。

ある晩、夢の中に薬師如来が現れ「重感よ、長い間、日参したことはまことにけなげである。よつて薬を与える。明朝、我が前に来られ」とお告げになりました。如来の前にはお告げ通り薬の包みがありました。重感が飲むと不思議にも眼病は、たちまち治り、見えるようになりました。

信仰による精神力

医王寺二十七代住職 中川弘道さん

全国にある薬師如来も眼病を治す仏様とし

て信仰されています。

「眼は心なり」といわれるように眼は精神的なことや体調に非常に影響されます。信仰により、このような障害が取り除かれ眼病が治るのではないのでしょうか。

わたしの

おじいさんも治った

小野次郎さん(中里三)

私のおじいさんは、若い時、眼をわずらいました。医王寺の薬師さんにおこもりして治ったそうです。それから薬師さんを信仰し、眼もわずらわず九十一歳まで健康に暮らしました。